



桃五だより



No.622

(3月号)

2023.3.1

杉並区立桃井第五小学校

<https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/>

バトンをつなぐ

校長 川田 忠

家庭科室の前を通ると、楽しげな声が聞こえてきました。6年生が卒業制作として、教室タブレットのクレードルやプロジェクターのカバーづくりを行っていました。グループに分かれ、担当した学級への思いを込めて、カバーとしての体裁を整えるために手縫いやミシン使って作業をしていました。

カバーの図柄は、いろいろでした。フェルトを切り取り、ガーベラやコスモスの花びらの形にしたり、富士山や太陽をイメージしたりするグループがありました。また、国語で学んだスミエの一場面を表すために小さな赤い魚の形をたくさん切り取ったり、何枚かのフェルトを重ねて教室の黒板の様子を見事に表しているグループもありました。

様々な色のフェルトを使い、担当した学級名もきちんと入れてカバーづくりを進める6年生がいました。作業にかかる時間は限られている中で、桃五小の各教室への贈り物を届けるために自分たちの力で卒業制作に取り組んでいました。

卒業していく6年生に対して、下級生もお祝いの準備を重ねています。お世話になった6年生へのメッセージカードを作るために、たてわり班活動として作業を行いました。その場を仕切ったのは5年生。これまでは、常に6年生がたてわり班をまとめてくれました。6年生の後を継ぐ5年生が、初めてまとめ役となり下級生をリードし、活動しました。

たてわり班での活動を終えて教室に戻った5年生は、「大変だった」「疲れた」と口にしました。予定通りに進んだ班があれば、ちょっと戸惑った班もあったようです。たった1時間の活動だったにも関わらず、初めてのリード役を緊張の中で経験することになりました。5年生にとっては、下級生をリードし、

たてわり班活動をやりきったことが、大事なはじめの一歩となりました。

6年生にとっては、小学校の卒業はもの心がついて初めて味わう別れの時です。幼稚園や保育園の卒園の時とは、明らかに違う感情をもって卒業を迎えます。まずは、ともに歩んできた同学年の仲間たちへの感謝や、協働して学び、一緒に過ごす中で築かれた友達への信頼感をたくさんもって、巣立ってほしいと願っています。

同時に、この1年間で桃五小の最高学年として積み上げた自信ある態度や、最高学年として示してきた自覚ある姿を最後まで貫き通してもらいたい。桃五小に残していくのは、卒業制作のカバーだけではありません。最高学年としてやってきた6年生の気持ちを全部引き継ぐつもりで、残りの時間を過ごしてもらいたいと思います。

そういう姿を下級生はしっかりと受け継いでいきます。行事でも、日常でも、6年生の取り組む様子や姿から学んだことは限りがありません。「あんな6年生になりたい」「自分たちも、がんばらなくちゃ」という思いをもち、憧れてきた最高学年を追いかけていくことになります。

バトンをつないでいく3月。まだまだ寒さを感じる日もあることでしょう。でも、日に日に春風はあたたかさを増し、木々や花壇に新たな命を感じるようになります。自然の変化のように、桃五でも流れるようなバトンパスが行われ、バトンを渡した人たちにも、バトンを引き継いだ人たちにも、新年度に向けての希望や期待が胸いっぱいになってもらえたらと思っています。

3月の生活指導目標 1年間のまとめをしよう

3学期も残りわずかとなりました。「整理整頓」「後始末」といった片付けの習慣をしっかりと身に付けることはできたでしょうか。片付けをきちんとすることが学習や生活の向上につながり、気持ちのよい生活を送ることにつながるという経験を、少しずつ積み重ねさせていきたいものです。

3月は1年間のまとめの月です。ご家庭でも1年間のできるようになったことを振り返ってみてください。